

# キャリア教育実践の基本

令和5年4月26日  
筑波大学 人間系 教授 藤田 晃之

①

## 【基礎的事項の再確認】 キャリア教育って何だ？

②

### キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立に向け、  
必要な基盤となる能力や態度を育てるこ  
とを通して、キャリア発達を促す教育。

#### ●「キャリア」とは何か？

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。(中略)このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

また、このように、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。

※中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月)

③

「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

例えば、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられる。

「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

例えば、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。

#### キャリア教育を通して育てる 基礎的・汎用的能力

「課題対応能力」は、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

例えば、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

例えば、学ぶこと・働くことの意味や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。(第1章3(2)③)

※中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月)

④

## 基礎的・汎用的能力の特質

- これらの能力は、包括的な能力概念であり、必要な要素をできる限り分かりやすく提示するという観点でまとめたものである。この4つの能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にある。このため、特に順序があるものではなく、また、これらの能力をすべての者が同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものではない。
- これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるのかは、学校や地域の特色、専攻分野の特性や子ども・若者の発達の段階によって異なると考えられる。各学校においては、この4つの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて具体の能力を設定し、工夫された教育を通じて達成することが望まれる。その際、初等中等教育の学校では、新しい学習指導要領を踏まえて育成されるべきである。

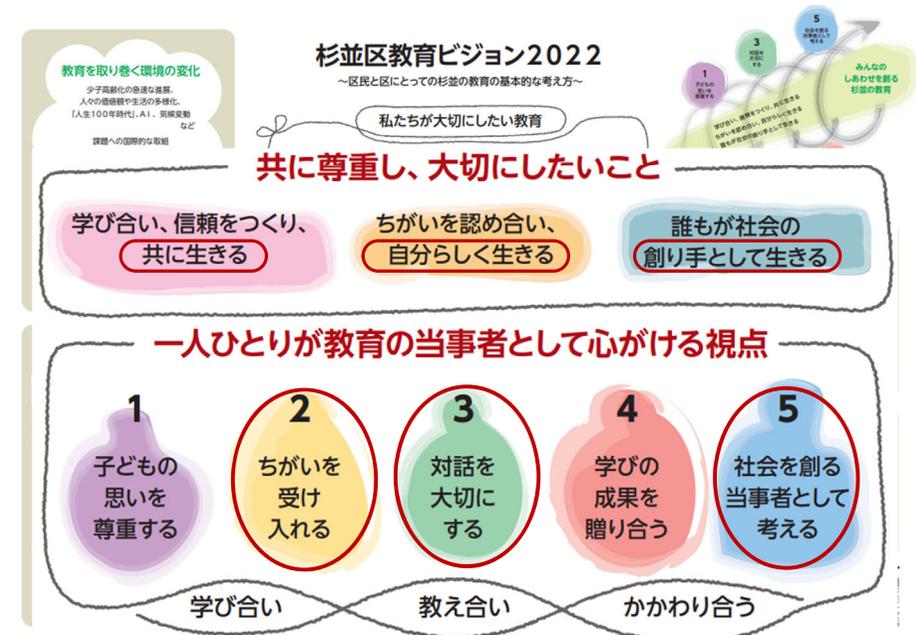
※中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月)

## キャリア教育の意義・効果

- 第一に、キャリア教育は、一人一人のキャリア発達や個人としての自立を促す視点から、学校教育を構成していくための理念と方向性を示すものである。各学校がこの視点に立って教育の在り方を幅広く見直すことにより、教職員に教育の理念と進むべき方向が共有されるとともに、教育課程の改善が促進される。
- 第二に、キャリア教育は、将来、社会人・職業人として自立していくために発達させるべき能力や態度があるという前提に立って、各学校段階で取り組むべき発達課題を明らかにし、日々の教育活動を通して達成させることを目指すものである。このような視点に立って教育活動を展開することにより、学校教育が目指す全人的成長・発達を促すことができる。
- 第三に、キャリア教育を実践し、学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連付け、将来の夢と学業を結び付けることにより、生徒・学生等の学習意欲を喚起することの大切さが確認できる。このような取組を進めることを通じて、学校教育が抱える様々な課題への対処に活路を開くことにもつながるものと考えられる。

※中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月)

## 杉並区が目指す 教育の姿とキャリア教育



しあわせの言葉 ~ありがとう~

杉並区教育ビジョン2022

スタート

「みんなのしあわせを創る杉並の教育」

杉並区教育委員会では新たに「杉並区教育ビジョン2022」を作りました。

このビジョンは、大人も子どももすべての人が学びを通して、

自分の気持ちに正直に、自分の人生を自分で決めて生きられることを願って、

教育の基本的な考え方を示したものです。

そして、「私たちが大切にしたい教育」として

みんなのしあわせを創る杉並の教育

を掲げました。

もどる

6

つぎへ

「人間関係形成・社会形成能力」

は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の意見で、相手に、自分の考えを、正確に伝えることが、できる。

2. ちがいを 受け入れる  
3. 対話を 大切に する  
5. 社会を創る 当事者として 考える

「自己理解・自己管理能力」は、

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自分の考え

自分の気持ちに正直に、  
例えば、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。

キャリア教育を通して育てる 基礎的・汎用的能力

「課題対応能力」は、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

例えば、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情

自分の人生を自分で決めて生きられる

例えば、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。(第1章3(2)③)

※中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月)

現行学習指導要領が  
キャリア教育に期待すること

第2期 教育振興基本計画 平成25年6月14日閣議決定

「教育振興基本計画」が策定されました。

「教育振興基本計画」は、教育基本法に基づき政府として初めて策定した計画です。教育基本法に示された教育の理念の実現に向けて、今後10年間を通して目指すべき教育の姿を明らかにするとともに、今後5年間(平成20～24年度)に取り組みべき施策を総合的・計画的に推進するものです。

◆教育基本法(平成18年12月22日法律第120号)  
(教育振興基本計画) 第17条 政府は、第1項に定める基本理念に基づき、教育の振興に寄与するとともに、地方公共団体のための施策に関する教育の振興に努める。

平成20年7月 策定までの経緯

- 平成12年12月 教育改革国民会議報告  
※教育改革国民会議とは、21世紀の日本を担う創造性の高い人材の育成を目指し、教育の振興に寄与するとともに、地方公共団体のための施策を求めた会議です。
- 平成13年11月 中央教育審議会に諮問
- 平成15年3月 中央教育審議会答申「新しい時代にあふざむべき教育基本法と教育振興基本計画の在り方について」
- 平成18年12月 改正教育基本法 公布・施行
- 平成19年2月 文部科学大臣から中央教育審議会に対して審議要請
- 平成20年4月 中央教育審議会答申「教育振興基本計画について～教育立国の実現に向けて～」
- 平成20年7月1日 教育振興基本計画 閣議決定

平成25年6月

第2期の「教育振興基本計画」(計画期間:平成25年度～29年度)が策定されました。「教育振興基本計画」は、教育基本法に基づき政府が策定する教育に関する総合計画です。

文部科学省

# 今日求められるPDCA

## ● 第1期教育振興基本計画(平成20年7月)

### 第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策

#### (1) 基本的考え方

従来、教育政策の策定と実施においては、例えば「教育課程」や「教職員定数改善」、「高等教育」など、個別のテーマに焦点を絞り、当該分野の中での完結を目指す傾向が強かった。教育振興基本計画は、これら個別の政策を横断的に捉え直し、教育政策の総合的な推進を図ることを意図するものである。

また、これまで教育施策においては、目標を明確に設定し、成果を客観的に検証し、そこで明らかになった課題等をフィードバックし、新たな取組に反映させるPDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルの実践が必ずしも十分でなかった。今後は施策によって達成する成果(アウトカム)を指標とした評価方法へと改善を図っていく必要がある。こうした反省に立ち、今回の計画においては、各施策を通じてPDCAサイクルを重視し、より効率的で効果的な教育の実現を目指す必要がある。

# 第2期教育振興基本計画

(平成25年6月)

## ● 第1期計画の総括と今後の方向性(抄)

### ● 第1期計画の総括

- 第1期計画において掲げる「10年間を通じて目指すべき教育の姿」の達成はいまだ途上にあると考えられ、(中略)繰り返し指摘されてきた諸課題は依然として未解決のものも多く、より複雑化・顕在化している。

### ● 教育課題が依然として指摘される要因の例

- 「どのような成果を目指すのか」「どのような力の修得を目指すのか」といった明確な目標が設定され、その取組の成果について、データに基づく客観的な検証を行い、そこで明らかになった課題等をフィードバックし、新たな取組に反映させる検証改善サイクル(PDCAサイクル)が、教育行政、学校、学習者等の各レベルにおいて、必ずしも十分に機能していなかったこと

## 学習指導要領の改訂動向

諮問

● 平成26年11月20日

答申

● 平成28年12月21日

告示

● 平成29年3月31日(小・中)

告示

● 平成30年3月30日(高)

## 改訂のための審議を求める諮問文より

- 文部科学大臣「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問)」平成26年11月20日

(前略)今般、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の在り方について諮問を行うものであります。

具体的には、以下の点を中心に御審議をお願いいたします。

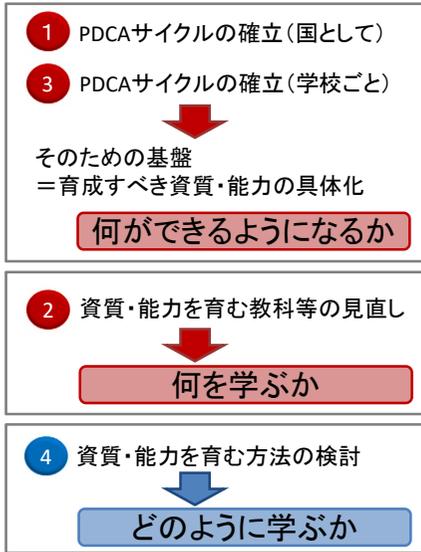
第一に、教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方を一体として捉えた、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の基本的な考え方についてであります。(中略) ※この中でアクティブ・ラーニングに言及

第二に、育成すべき資質・能力を踏まえた、新たな教科・科目等の在り方や、既存の教科・科目等の目標・内容の見直しについてであります。(中略)

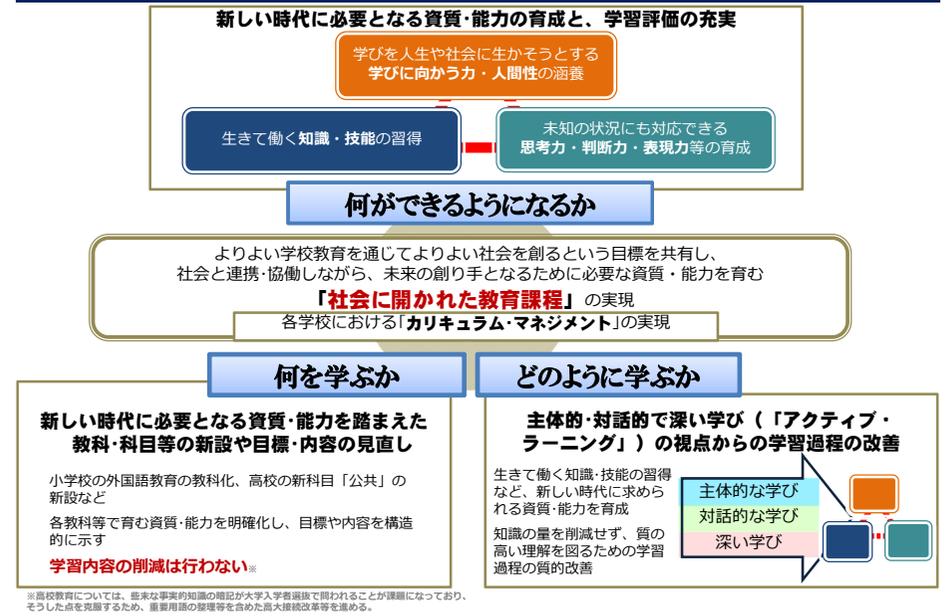
第三に、学習指導要領等の理念を実現するための、各学校におけるカリキュラム・マネジメントや、学習・指導方法及び評価方法の改善を支援する方策についてであります。(以下略) ※この中でアクティブ・ラーニングに言及

# 諮問の構造

- 1 第一に、**教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方を一体として捉えた**、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の基本的な考え方についてであります。(中略) 4 ※この中で**アクティブ・ラーニング**に言及
- 2 第二に、育成すべき資質・能力を踏まえた、**新たな教科・科目等の在り方**や、既存の教科・科目等の目標・内容の見直しについてであります。(中略)
- 3 第三に、学習指導要領等の理念を実現するための、**各学校におけるカリキュラム・マネジメント**や、**学習・指導方法及び評価方法の改善**を支援する方策についてであります。(以下略)
- 4 ※この中で**アクティブ・ラーニング**に言及



## 学習指導要領改訂の方向性

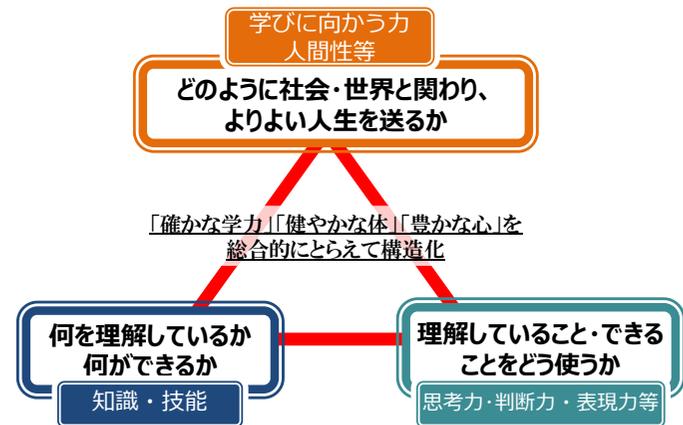


# 「何ができるようになるか」



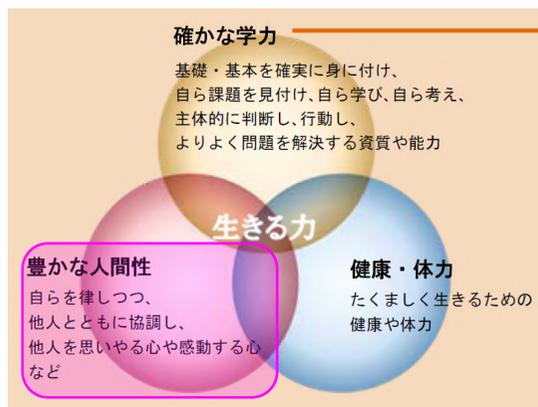
## 育成を目指す資質・能力の三つの柱

学習指導要領等は、教育の内容及び方法についての必要かつ合理的な事項を示す大綱の基準として、法規としての性格を有している。一方で、その適用に当たって法規としての学習指導要領等に反すると判断されるのは、例えば、学習指導要領等に定められた個別具体的な内容項目を行わない場合や、教育の具体的な内容及び方法について学校や教員に求められるべき裁量を前提としてもなお明らかにその範囲を逸脱した場合など、学習指導要領等の規定に反することが明白に捉えられる場合である。そのため、資質・能力の育成に向けては、学習指導要領等に基づき、目の前の子供たちの現状を踏まえた具体的な目標の設定や指導の在り方について、学校や教員の裁量に基づく多様な創意工夫が前提とされているものであり、特定の目標や方法に画一化されるものではない。(p.22)



# 生きる力

平成8年(1996年)の  
中央教育審議会答申による提唱



# 学力の3要素

平成19年(2007年)の  
学校教育法改正(第30条第2項)

- ① 基礎的な知識及び技能
- ② これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

- 第4次産業革命 ・ Society 5.0
- 知識基盤社会やグローバル化の進展
- 幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断
- 学び続ける力
- 切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々と共存していくこと 等



## 重要 各学校が「うちの子たちに身につけさせたい力」を設定すること

### 【再確認: 基礎的・汎用的能力】

- これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるのかは、学校や地域の特色、専攻分野の特性や子ども・若者の発達の段階によって異なると考えられる。各学校においては、この4つの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて具体的な能力を設定し、工夫された教育を通じて達成することが望まれる。

### 【再確認: 新学習指導要領における資質・能力】

- 資質・能力の育成に向けては、学習指導要領等に基づき、目の前の子供たちの現状を踏まえた具体的な目標の設定や指導の在り方について、学校や教員の裁量に基づく多様な創意工夫が前提とされているものであり、特定の目標や方法に画一化されるものではない。

学びに向かう力  
人間性等

どのように社会・世界と関わり、  
よりよい人生を送るか

これらの力は「身についたかどうか」の検証をすることを前提に設定する  
→PDCAサイクルの確立→カリキュラム・マネジメント

## 現状の認識をしっかりと

- 今、手元にある情報をしっかりと捉えよう
  - これまで実施してきた生徒の児童・生徒の意識調査、保護者アンケート
  - 学校評議員からの意見
  - 学校評価(自己評価・学校関係者評価)
  - 全国学力・学習状況調査(児童・生徒質問紙調査[小・中])
  - プロ(=先生方)の見とり→付箋等を活用した意見交換
- 無論、現状把握のための新たなアンケートを実施することも検討する必要がある。
  - しかしその前に、「今、手元にある情報」の見落としに注意

## 【参考】全国学力・学習状況調査 生徒質問紙の調査項目の例

- 人間関係形成・社会形成能力に関わると思われる項目の例
  - 学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか
  - 人が困っているときは、進んで助けていますか
  - 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
  - 今住んでいる地域の行事に参加していますか
  - 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか
- 課題対応能力に関わると思われる項目の例
  - ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか
  - 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか
  - 学校のきまり〔規則〕を守っていますか
  - 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか
  - 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか
- 自己理解・自己管理能力に関わると思われる項目の例
  - 自分には、よいところがあると思いますか
  - 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
  - (学校質問紙)調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか
- キャリアプランニング能力に関わると思われる項目の例
  - 将来の夢や目標を持っていますか
  - 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
  - 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
  - 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
  - (学校質問紙)調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

## 【参考】杉並区教育調査 児童生徒質問紙の調査項目

1. 先生は、クラスみんなが分かり合い、協力し合えるようにしてくれている。
2. 授業では、学習を進める方法やペースを、自分で決めながら学んでいる。
3. 授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。
4. 授業では、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学んでいる。  
→課題対応能力との関連性
5. 授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。  
→人間関係形成能力との関連性
6. 学校の授業によって、分かることやできることが増えている。
7. 先生は、授業で自分ができたことを誉めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。
8. 先生は、授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している。
9. 先生は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。  
→キャリアプランニング能力との関連性
10. 道徳の時間では、友達や家族、地域の人たちと共によりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている。
11. 先生は、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている。
12. 学校や家などで、1か月に本、新聞、雑誌、調べ物をするための資料などを読んだ。
13. 地域の行事に参加している。  
→社会形成能力との関連性
14. 先生は、地域の人たちと協力し合いながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。

## 目標がちゃんとしていれば、 評価は難しくない

- 「身に付けさせたい力」が具体的に出来れば、それを“疑問形”に変換してアンケート調査項目が作れる  
例: <目標>必要なこと・すべきことには、不得意なことにもすすんで取り組むことができる  
<アンケート項目>あなたは、必要なこと・すべきことがある場合、それが不得意なことであってもすすんで取り組んでいますか?
- 「身に付けさせたい力」が具体的に出来れば、学校間のバトンの受け渡しもできる
  - 「たくましく未来を切り拓く力」だけではバトンの形も見えない

## 具体的な目標設定とは

- 惜しい典型例＝コミュニケーション能力を育てる
  - コミュニケーション能力って何?
    - 語彙が豊富かで、それらを的確に使える力?
    - 表情豊かに話すことができる力?
    - 初対面の人とも物怖じせずに話すことができる力?
    - 相手の気持ちを考えて、その人の立場を考慮しつつ伝える力?
    - 情報を曲解せず、事実に基づいて客観的に伝える力?
    - うまいタイミングでユーモアを加えながら、その場の雰囲気を読める力?
    - 自分の意見を論理的に説明できる力?
  - .....おそらく、これらの力の複合体がコミュニケーション能力
- では、目の前のこの子たちが、今、最も意識して身につけてはならないコミュニケーション能力ってどんな力?



主体的・対話的で深い学びの実現  
 (「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善)について(イメージ)

「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、子供たちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにすること

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

【出典】中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」平成28年12月21日【補足資料】p.11

主体的・対話的で深い学び

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」\*を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」

\*見方・考え方＝各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方

「見方・考え方」には教科等ごとの特質があり、**各教科等を学ぶ本質的な意義の核心をなすものとして、教科等の教育と社会をつなぐもの**である。子供たちが学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせられるようにすることこそ、教員の専門性が発揮されることが求められる。

【出典】中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」p.33

\*見方・考え方＝各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方

「見方・考え方」には教科等ごとの特質があり、**各教科等を学ぶ本質的な意義の核心をなすものとして、教科等の教育と社会をつなぐもの**である。子供たちが学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせられるようにすることこそ、教員の専門性が発揮されることが求められる。

子供たちに必要な資質・能力を育んでいくためには、各教科等での学びが、一人一人のキャリア形成やよりよい社会づくりにどのようにつながっているのかを見据えながら、各教科等をなぜ学ぶのか、それを通じてどういった力が身に付くのかという、**教科等を学ぶ本質的な意義**を明確にすることが必要になる。

【出典】中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」p.32



極めて重要な  
 各教科等を通じたキャリア教育の実践

総則が示すキャリア教育実践の在り方

- **小学校**(第4 児童の発達の支援 1 児童の発達を支える指導の充実)
  - (3) 児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。
- **中学校・高等学校**
  - (中学校:第4 生徒の発達の支援 1 生徒の発達を支える指導の充実)  
 (高等学校:第5款 生徒の発達の支援 1 生徒の発達を支える指導の充実)
  - (3) 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方(中)／生徒が自己の在り方生き方(高)を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

## 総則が示すキャリア教育実践の在り方

児童・生徒が、

- 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、
- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力※を身に付けていくことができるよう、  
※各学校が、目の前の子供の実態に即して設定する
- 特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る。

なるほど、  
今学んでいることは、自分にとって重要なんだなあ

なぜなら、この学びを通して、将来必要なこんな力が身につくんだから

特別活動を要しつつ、  
すべての教育活動を通して実践する



## 学級活動・ホームルーム活動：答申

H20年版

新

### ● 小学校

- (1) 学級や学校の生活づくり
- (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全

### ● 中学・高校

- (1) 学級(ホームルーム)や学校の生活づくり
- (2) 適応と成長及び健康安全
- (3) 学業と進路

### ● 小・中・高共通

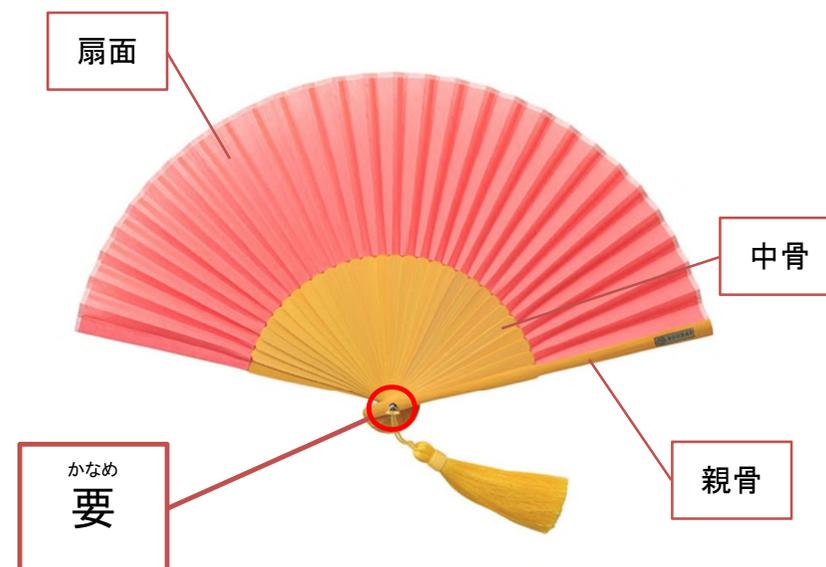
- (1) 学級・ホームルームや学校における生活づくりへの参画
- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- (3) 一人一人のキャリア形成と実現

「特別活動に関する指導力は、免許状がないこと等から専門性という点で軽く見られがちであるが、本来、小・中・高等学校の全ての教員に求められる最も基本的な専門性の一つである」(p.235)

## 学級活動・ホームルーム活動：告示

- 小・中・高共通
  - (1) 学級・ホームルームや学校における生活づくりへの参画
  - (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
  - (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
- 内容の取扱い
 

(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童/生徒が活動を記録し蓄積する教材等(=キャリア・パスポート)を活用すること。



# 「要」活用の大前提

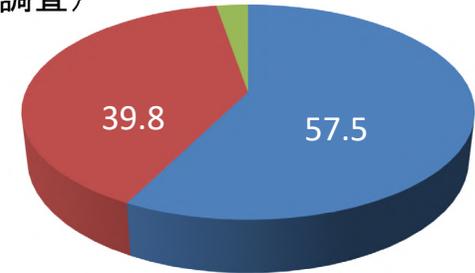
かなめ  
**要**

学級活動・ホームルーム活動  
(3)一人一人のキャリア形成と自己実現  
内容の取扱い  
(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童/生徒が活動を記録し蓄積する教材(=キャリア・パスポート)等を活用すること。

全ての教育活動を通じたキャリア教育の実践がないと、振り返ることはできない。

# 「宝」の見落としに要注意

- 平成22年度中に職場訪問や職場見学を実施しましたか？(小学校調査)



■ 実施した ■ 実施していない ■ 無回答

- 職場の全くない「商店街見学」？「まちたんけん」？
- 誰も動いていない「工場見学」？

平成23年2月～4月 5%抽出調査(文部科学省)

# 「宝」の見落としに要注意

平成30(2018)年5月6日朝日新聞朝刊

鷺田清一「折々のことば:第1101回」

民主的な社会に暮らす方法を学びたいのなら、オーケストラで演奏するのがよいだろう。

ダニエル・バレンボイム

楽団の各パート(受け持ち)は、あてがわれた単一の機能を担う部品(パーツ)とは違って、他の演奏者の思いを量りつつ、追従したり、けしかけたり、互いに応じあう中で曲を作ってゆく。そう、他の人のために場所を残しながら、同時に自分の場所を主張すると、ピアニスト・指揮者は言う。A・グゼリミアン編『バレンボイム/サイード 音楽と社会』(中野真紀子訳)から。

折々のことば 鷺田清一 1101

民主的な社会に暮らす方法を学びたいのなら、オーケストラで演奏するのがよいだろう。ダニエル・バレンボイム

楽団の各パート(受け持ち)は、あてがわれた単一の機能を担う部品(パーツ)とは違って、他の演奏者の思いを量りつつ、追従したり、けしかけたり、互いに応じあう中で曲を作ってゆく。そう、他の人のために場所を残しながら、同時に自分の場所を主張すると、ピアニスト・指揮者は言う。A・グゼリミアン編『バレンボイム/サイード 音楽と社会』(中野真紀子訳)から。

2018・5・6

## キャリア教育 よもやま話 Just Mumbling...

第36話 教科を通じたキャリア教育は難しい?—その2—(2018年5月6日)

仮に、ある学校で(あるいは当該学校の特定の学年で)、「一人一人の良さを認め、それぞれを大切にすることができる」「自他の良さを互いに活かしながら協力して生活することができる」などのキャリア教育の目標(キャリア教育を通して身につけさせたい力)が設定されているとしましょう。

その学校(あるいは学年)におけるキャリア教育の実践にとって、音楽の授業は、絶好のチャンスの一つです。その理由は、バレンボイムの言葉を鷺田さんが読み解いてくださったとおり、音楽の授業の中に「他の演奏者の思いを量りつつ、追従したり、けしかけたり、互いに応じあう中で曲を作ってゆく。そう、他の人のために場所を残しながら、同時に自分の場所を主張する」というキャリア教育の「宝」があるからに他なりません。

無論、このようなキャリア教育の目標を全く意識しなくとも、合奏や合唱等の授業においては、それぞれのパートの音や声を聴きあい、主旋律を活かしながら、自分のパートの役割を果たして一つの楽曲を創り上げる醍醐味を体感することができるよう指導することが求められます。でも、教師が「今、自分が指導しているこの音楽の授業そのものが、この学校(学年)で目指しているキャリア教育の目標を達成するための重要な機会でもある」と認識し、それを子供たちに伝えなければ、子供たちは、音楽の時間における学習活動それ自身が「民主的な社会に暮らす方法」につながるものであることに気づき、「なるほど!」と実感することはできません。そのような場合、音楽での学びは音楽の時間内に閉じたものとなり、ややもすると「うまく歌う」「うまく演奏する」という知識・技能の習得に限定した学習活動にとどまってしまう可能性も否定できないと言えるでしょう。

...もしそうだとすれば、本当にもったいない。

# 「何を学ぶか」



- 小学校においては...
  - 外国語教育の教科化
  - 特別の教科 道徳(道徳科) に関心が集まっている。
- 中学校においては...
  - 特別の教科 道徳(道徳科) を除いて教科等の変更はない。

とりわけ「特別の教科 道徳」は.....

## 第3章 特別の教科 道徳 (小学校の例)

### 第1 目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳科＝  
他の教科等より、  
扇面に占める割合が  
大きい可能性が高い

でも、本当にそうかどうかを決めるのは、各学校の先生方  
目の前の子供たちの現状を踏まえて  
設定した「身に付けさせたい力」に  
照らし合わせて考える

例えば  
算数・数学

内容  
A 主として自分自身に関すること  
B 主として人との関わりに関すること  
C 主として集団や社会との関わりに関すること  
(以下略)



「キャリア・パスポート」で  
学びをつなごう



# 学級活動・ホームルーム活動

## ●小・中・高共通

- (1) 学級・ホームルームや学校における生活づくりへの参画
- (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

## ●内容の取扱い

(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童/生徒が活動を記録し蓄積する教材等(=「キャリア・パスポート」)を活用すること。



ぐんぐんそだて！  
ぼくたちわたしたちの あさがお



今年の目標 漢字一文字で



平成31(2019)年3月29日 文部科学省発出文書より

事務連絡  
平成31年3月29日

各都道府県教育委員会指導事務主管課  
各指定都市教育委員会指導事務主管課  
各都道府県私立学校事務担当課  
附属学校を置く国立大学法人附属学校事務担当課  
附属学校を置く公立大学法人附属学校事務担当課  
構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた  
各地方公共団体株式会社立学校事務担当課

御中

文部科学省初等中等教育局児童生徒課

「キャリア・パスポート」例示資料等について

平素より、キャリア教育の充実に御協力をいただき、感謝申し上げます。

新学習指導要領（小学校及び中学校学習指導要領（平成29年3月公示）、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（同年4月公示）、高等学校学習指導要領（平成30年3月公示）、特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月公示）総則において、児童生徒が「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教

## 「キャリア・パスポート」とは

- 小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるもの。
- 教師にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。

なお、その記述や自己評価の指導にあたっては、教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならない。

## 「キャリア・パスポート」の姿

- 児童生徒自らが記録し、学期、学年、入学から卒業までの学習を見直し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるものとする
  - 児童生徒が記録する日常のワークシートや日記、手帳や作文は、「キャリア・パスポート」を作成する上での貴重な基礎資料となるが、それをそのまま蓄積することは不可能かつ効果的ではなく、基礎資料を基に学年もしくは入学から卒業等の中・長期的な振り返りと見直しができる内容とすること。
  - 学年、校種を越えて持ち上げることができるものとする(小学校入学から高等学校卒業までの記録を蓄積する前提の内容とし、各シートはA4判(両面使用可)に統一し、各学年での蓄積は数ページ(5枚以内)とすること)。



振り返りを拒む



少しの工夫で変えられる

## 「キャリア・パスポート」の姿

- 学級活動・ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合にはその内容及び実施時間数にふさわしいものとする
  - 記録の活動のみに留まることなく、記録を用いた話し合い活動や意思決定などの学習過程を重視すること
  - 学級活動・ホームルーム活動以外の教科・科目や学校行事、帰りの会やショートホームルーム等での記録も十分に考えられる

学級活動・ホームルーム活動は年間35時間  
 小学校学級活動を構成する内容項目数: 10  
 中学校学級活動を構成する内容項目数: 11  
 高等学校ホームルーム活動を構成する内容項目数: 12

## 「キャリア・パスポート」の姿

- 「キャリア・パスポート」は、学習活動であることを踏まえ、日常の活動記録やワークシートと同様に指導上の配慮を行う
  - 児童生徒個々の状況を踏まえ、本人の意思とは反する記録を強いたり、記録自体を強制したりしないように配慮すること
  - 特別支援学級、特に配慮を要する児童生徒においては、障害の程度や発達段階に応じて、無理のない記録や蓄積とすること
  - 学習指導要領解説特別活動編にあるように「キャリア・パスポート」は自己評価、学習活動であり、そのまま学習評価とすることは適切でないこと

# 新学習指導要領解説 特別活動編(抄)

## ● 例:『中学校学習指導要領解説・特別活動編』

- 特別活動の評価において、最も大切なことは、生徒一人一人のよさや可能性を生徒の学習過程から積極的に認めるようにするとともに、特別活動で育成を目指す資質・能力がどのように成長しているかということについて、各個人の活動状況を基に、評価を進めていくことである。そのためには、生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題をもてるようにするために、活動の結果だけでなく活動の過程における生徒の努力や意欲などを積極的に認めたり、生徒のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切である。そのため、生徒一人一人が、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようにすることができるようなポートフォリオ的な教材などを活用して、自己評価や相互評価するなどの工夫が求められる。なお、生徒の自己評価や相互評価は学習活動であり、それをそのまま学習評価とすることは適切ではないが、学習評価の参考資料として適切に活用することにより、生徒の学習意欲の向上につなげることができる。自己評価の活動としては、学習指導要領第5章の第2の〔学級活動〕の3の(2)において、学級活動の内容(3)について、「学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。」とされたことを活用することが考えられる。

# とりわけ大切なのは 先生のコメント・言葉かけ

## ● 作成や振り返りの際の「対話的な関わり」の重要性

- 【例】「しんどい時期」の作成・「しんどかった時期」の振り返りの際にこそ問われる教師の力量

- 書けない・書かない、「わからない」「特にない」...  
→児童期の安定した(幼い)自己理解・社会理解から脱した成長の証。不安定な自分自身への不安、将来への不安も含めて、成長のプロセス。
- 思春期の疾風怒濤の時期を振り返るつらさ(高校生)  
→その時期を乗り越えたからこそ、「今のあなた」がいるという高校の教師によるコメントが重要。  
→このような振り返りが可能となるような児童生徒自身の率直な記録と、小学校・中学校時代の教師によるコメントが大前提。

平成31(2019)年3月29日 文部科学省発出文書より【再掲】

事務連絡  
平成31年3月29日

各都道府県教育委員会指導事務主管課  
各指定都市教育委員会指導事務主管課  
各都道府県私立学校事務担当課  
附属学校を置く国立大学法人附属学校事務担当課  
附属学校を置く公立大学法人附属学校事務担当課  
構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた  
各地方公共団体株式会社立学校事務担当課

御中

文部科学省初等中等教育局児童生徒課

「キャリア・パスポート」例示資料等について

平素より、キャリア教育の充実に御協力をいただき、感謝申し上げます。

新学習指導要領(小学校及び中学校学習指導要領(平成29年3月公示)、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(同年4月公示)、高等学校学習指導要領(平成30年3月公示)、特別支援学校高等部学習指導要領(平成31年2月公示)総則において、児童生徒が「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教

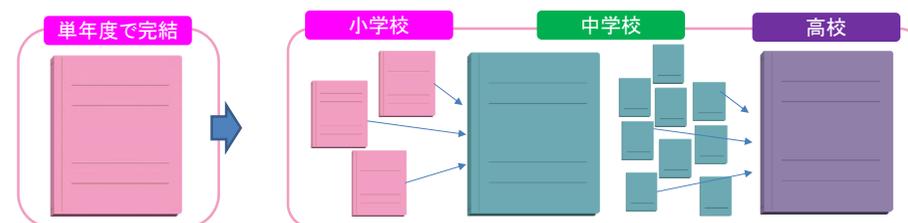
## なぜ「例示資料」なのか？



ぐんぐんそだて！  
ぼくたちわたしたちのあさがお



今年の目標 漢字一文字で



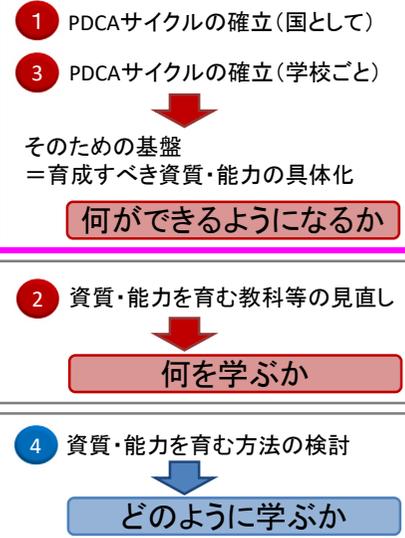
## まとめにかえて



重要

## 新学習指導要領に向けた 諮問の構造

- 1 第一に、**教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方を一体として捉えた**、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の基本的な考え方についてであります。(中略) 4 ※この中で**アクティブ・ラーニング**に言及
- 2 第二に、育成すべき資質・能力を踏まえた、**新たな教科・科目等の在り方や**、既存の教科・科目等の目標・内容の見直しについてであります。(中略)
- 3 第三に、学習指導要領等の理念を実現するための、**各学校におけるカリキュラム・マネジメント**や、学習・指導方法及び評価方法の改善を支援する方策についてであります。(以下略)
- 4 ※この中で**アクティブ・ラーニング**に言及



重要

## 各学校が「うちの子たちに身につけさせたい力」を設定すること

### 【再確認:基礎的・汎用的能力】

- これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるのかは、学校や地域の特色、専攻分野の特性や子ども・若者の発達の段階によって異なると考えられる。各学校においては、この4つの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて具体的な能力を設定し、工夫された教育を通じて達成することが望まれる。

### 【再確認:新学習指導要領における資質・能力】

- 資質・能力の育成に向けては、学習指導要領等に基づき、目の前の子供たちの現状を踏まえた具体的な目標の設定や指導の在り方について、学校や教員の裁量に基づく多様な創意工夫が前提とされているものであり、特定の目標や方法に画一化されるものではない。

学びに向かう力  
人間性等  
どのように社会・世界と関わり、  
よりよい人生を送るか

これらの力は「身についたかどうか」の検証をすることを前提に設定する  
→PDCAサイクルの確立→カリキュラム・マネジメント

## 富士見丘小学校「令和4年度の児童の実態まとめ」を拝見してみると.....

- 低学年の実態
  - 自己分析が苦手な児童が多い。
  - 自己理解ができると、目標への見通しがもてる。
- 中学年の実態
  - 文章が書けない。
  - 句読点を正しく打てない。
  - 段落をつけられない。
  - 主語・述語が整わない。.....(以下、略)
- 高学年の実態
  - リアルな体験を通して、主体的に学ぶ姿が見られた。
  - デジタルを適宜使用する力が身についてきた。
  - スモールステップを踏まえて考えることで、次への学習につながる場面が見られた。.....(以下、略)

児童の実態を見取る  
視点が揃っていない

↓

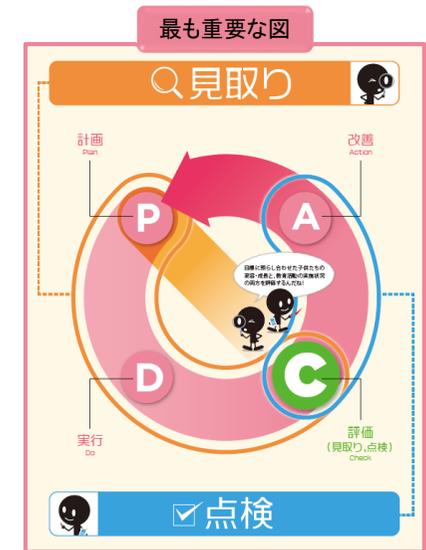
基礎的・汎用的能力を  
構成する4つの能力を  
参考にしてみよう

重要

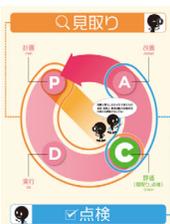
# 目標がちゃんとしていれば、 評価は難しくない

- 「身に付けさせたい力」が具体的にあっていれば、それを“疑問形”に変換してアンケート調査項目が作れる
  - 例：〈目標〉必要なこと・すべきことには、不得意なことにもすすんで取り組むことができる
  - 〈アンケート項目〉あなたは、必要なこと・すべきことがある場合、それが不得意なことであってもすすんで取り組んでいますか？
- 「身に付けさせたい力」が具体的にあっていれば、学校間のバトンの受け渡しもできる
  - 「たくましく未来を切り拓く力」だけではバトンの形も見えない

# 目標と評価の一体化



# 目標と評価の一体化



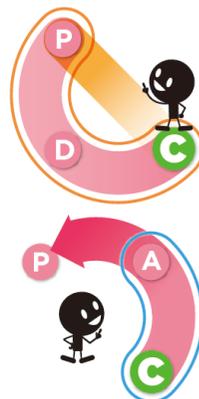
## 評価(見取り, 点検)のカギは?? 「スタートに立ち返る」—目標・計画にあります

先生方が目指した目標や計画に立ち返ることが重要です。

見取りの際に、先生方が立てた計画において決めた、子供たちに身に付けさせたい力を意識することから始めませんか。

教育活動の点検の際にも、計画に照らしながら、子供たちに力を身に付けさせるのに役立つ活動となったかを意識しながら情報収集することから始めませんか。

目標・計画に常に立ち返り、見取りと点検を地道に行い、改善した上で、次の計画を充実させていくことこそが、教育におけるPDCA(検証改善)サイクルの推進にほかなりません。



ありがとうございました

キャリア教育 よもやま話 検索

【参考資料】後日、お手隙の折にお目通しいただけましたら幸いです。

筑波大学 キャリア教育学研究室

トップページ 研究紀要 キャリア教育よもやま話 主要リリースへのリンク集 Archives 2003-2007 お問い合わせ

キャリア教育 よもやま話 Just Mumbling...

第50話 「キャリア・パスポート」は「お荷物」か？ (2019年10月13日)

ご無沙汰しております。各地での研修会にお邪魔している間に8月が終わってしまい、9月中旬に控えた全国キャリア教育学会 (IAEVG) 年次大会での発表準備等に手を取っている間に大会本場を逃し、開催地スロバキアからの帰国後は不在にたまったばかりと悟せざるを得ず、そうこうしている間に秋学期 (後期) の授業が始まっており、ふと気が付けば10月中旬でした。

小学生の頃は夏休みをあんまり長く感じたのに、なぜ今はこんなに日々の経過が早いのか、……その昔は暑うまでもなく「加齢」及び「能力の不足」、動かすことのできない現実とはいえ、毎年、秋はこの新しい職業に専念せざるを得ないのが辛い。「『新しいのが分かっていゝんだら、事前に対策を練ろうよ。』」それは聞いても、できること、できないことがあるんだよ。」……先日、風呂に入りながらこんな独り言を書いている自分に気づき、我ながら驚いてしまいました。思っていることを無意味のまま書き残してしまふことが本当にあるの